

第35期（第2回）神戸市社会教育委員会議事録（要旨）

1. 日 時：平成31年3月7日（木）15：10～16：00

2. 場 所：神戸市生涯学習支援センター 201多目的室

3. 出席者：

(1) 社会教育委員8名（辻委員、藤坂委員欠席）

(2) 事務局 荒牧教育施策推進担当部長、宮崎地域連携推進課長、中井首席指導主事、
安田担当課長（埋蔵文化財センター）、鎌田担当課長（中央図書館）、
小野田学芸課長（博物館）、浅野首席指導主事 他

4. 開 会：地域連携推進課長

5. 議事・報告事項：

（1）第35期第1回会議議事録【要旨】の確認について

（事務局）資料1により、前回の会議議事録（要旨）について説明

（議 長）質問、意見はあるか。

（委員全員）特に質問、意見なし

（2）「次期神戸市教育振興基本計画」について

（事務局）教育委員会として次期の5ヵ年計画になるが、次期神戸市教育振興基本計画について、検討委員会を開催した。現在までの状況を報告するので、その内容について、社会教育委員としてのご意見を賜りたい。

今までに、この検討委員会は2/15（金）と3/6（水）の2回開催されており、第1回では、計画策定の趣旨や位置づけといったことを確認すると共に、策定主体は教育委員会であることの確認、現行計画である第2期の総括及び今回の策定の視点についての説明と議論がなされた。

具体的には5頁から10頁にかけて、策定の視点についての資料を添付している。特に人口動態を見ていただくと、色々な地域から人が出たり入ったりしている様子が描かれている。特に国外からの人口増加も見受けられる。こういう現状を意識して策定する必要があるということだ。

また、8頁にあるように、国の動きとして第3期教育振興基本計画や学習指導要領等の改訂も踏まえる必要がある。そして神戸市教育大綱、これらを総合して策定していくという方向の確認が行われた。

そして神戸市生涯学習総合計画及び第3次神戸市子供読書活動推進計画については、新たに計画は定めず、第3期神戸市教育振興基本計画に盛り込み、それらの後継計画として位置づけることを明記されている。これに伴い参考資料として11頁から14頁に渡り、現在までの取り組み状況を共有される形となった。

次期教育振興基本計画についてだが、現在教育委員会全体が学校教育に注力する方向に舵を切ろうとしているので、その方向を意識したまとめ方になっていくと思う。

この第1回検討委員会で委員から出た意見としては、学校教育の重要性、生涯に

渡って学びあうこと、どう活かすのか、これらを地域の協力のもとで作り上げていくのだ、ということ考虑した計画であるべきだというお話があった。それから、“神戸らしさ”を新しい計画にどう盛り込んでいくのか、という観点から持続可能な社会作りが大事なのではないかと、というものがあつた。

また、本日は欠席だが、辻委員から社会性を持った大人になるために、青年期に対するアプローチが大事だということ、それからPTA役員である宮澤委員からは教員の多忙化対策の一環で部活改革が行われているが、その研修のこと、また保護者への負担も大きくなる中、共働きの家庭ではどう折り合いをつけていくのか、といったご意見も出た。

それらを踏まえて、昨日行われた第2回の検討委員会の資料を後ろに添付しているが、こちらでは現行計画の総括に対する議論の続きの他、神戸の教育理念、目指す子供像といったものの提示に対する意見が出され、それに続いて実施計画の基本政策や重点事業の案が審議された。

社会教育に関しては、主に基本政策2の重点事業13の“地域と学校との連携・協働を進める社会に開かれた教育の実現”、重点事業14の“地域に活かし・つながる社会教育の充実”に該当している。これらの考え方として、“社会に開かれた教育の推進”と“社会教育の充実”という形で記載されており、前者については、新学習指導要領を踏まえて設定、後者については、子供を含めた地域全体に書くライフステージでの学びを還元していくことを明言したものだ。

第2回の検討委員会でも議論が活発となり、またいくつかの修正が入ると思う。今後も検討が入るという前提の上でご覧いただいて、ご意見をいただければと思う。

また、子供の読書推進活動の計画についてだが、読書活動は他の項目との連動や全般的なこととの関わりが深いことから、残念ながら、現時点で単独では入っていないが、第2回の会議の際に、オブザーバーとして参加していた現職の学校長より、学習指導要領の中で8割近くの学校長が読書を重視する旨の（アンケート）結果があることから子供の読書活動に力を入れたい、との意見があつた。重点事業の1、2、13、14あたりに盛り込まれるかと思う。

今後の教育振興基本計画におけるスケジュール感だが、更に検討委員会を何度か重ねて重点事業や目標を6月頃目処に具体的につめていき、8月頃に案として固めたいということだ。

社会教育委員会議についても、例年であれば次回7月頃だが、教育振興基本計画の進行が早いため、場合によっては早くお集まりいただく、または違った形で参集させていただく可能性もある。そういった場合には、ご協力をお願いします。

（議 長）質問、意見はあるか。神戸市の教育振興基本計画に対して、社会教育の立場から意見を言うことを求められていると思う。

（花岡委員）確認だが、神戸市生涯学習総合計画と第3次神戸市子供読書活動推進計画については、新たな計画は定めず第3期神戸市教育振興基本計画に盛り込まれ

るということによろしいか。

(事務局) そうだ。単独計画はつukらないとのことだ。

(議 長) 本当は逆に生涯学習総合計画に、色々な計画を盛り込むべきだと思う。性質的には同質ではないので、それぞれ別にあるというのもひとつの選択だとは思うが。

(花岡委員) ちなみに他の市町村行政の現状はどうか。

(事務局) それぞれの市町村でばらばら。生涯学習については、努力義務という形になっているが、総合計画を作っている自治体は多い。教育振興基本計画については、ない自治体は基本的にない。

(花岡委員) 神戸市は今回、これらを統合すると。

(事務局) 市としては、こういった計画が複数ある現状から、ある程度整理し、まとめたものにしようという動きで。その中で教育においては、教育振興基本計画が一番メインになる、そこに落とし込んでいこうという流れだ。

(議 長) このあたりの問題意識は、この後に説明いただく、組織改正のところで説明してもらおう。

(目黒委員) ちょうど国が第4次の読書活動の推進に関する基本的な計画を昨年度策定し、それに基づいて色々な自治体が動きだしている。前回にも申し上げたが、見せ方というか、(神戸市は) 政令市として第4次読書活動推進計画が分かりやすい位置におかれていない、というのは、非常に後退しているように取られると思う。

対外的に、しっかり見える形で重点事業として出すのか、具体的なところはまだないが、ちゃんと出していないと(神戸市は) 後退しているな、と取られかねないと、非常に危惧している。

(議 長) おそらく、それは何らかの形で入ってくるかと思う。先日の会議では、読書、というより読解という言い方でとっかかりを感じた。読解力、という部分で少し読書とは違うが、注視していく、ということで、ここから、読書というアクティビティに他にどんなアクティビティを足してバランスよく作っていくのか、という点で明確にしていくのではないか。

神戸らしさ、というのを学校でやっていく中で、“トライやるウィーク”というフィールドワーク系の学習活動が、例に出ていたが、それ以外が挙がらない状況だ。

授業力をつける、ということを校長先生方は大事にされておられるが、授業力をつける方法は研修しかない、という議論になった。しかし内実はもっと違うと思う。おそらく、そういうことが浮かび上がってくれば、読書活動等が挙がってくるのではないかと思う。

(井上委員) 重点事業2 豊かな心の育成、についてP. 18の考え方に“読書活動”の記載があるように、この部分を膨らますことが出来れば、読書活動が後退したという印象にならないように出来るのではないか。

(議 長) 読書というのは本来方法論であるにもかかわらず、環境教育や人権教育、

伝統文化を学ぶ、というところに横並びになっていること自体が疑問だ。

先ほど見せ方、という観点の話もあったが、強く前面に押しと反発するし、どうやって印象付けるかという点は慎重にならないといけない。

(花岡委員) 2点ある。1つ目は、学校だけでなく、地域コミュニティにおける活動の重要性、2つ目は、先ほど挙げた“豊かな心の育成”について、賛成だが、「歴史に学び、自然に学び」という私の思いから言うと、この豊かな心の育成には“歴史”が足りないのではないか、これも大事なことだと考える。

(齋藤委員) 生涯学習がいかに地域で、色んな団体、関与者をネットワークを基に運営され、たくさんの方が参画し、したい時期にしたい内容を学べるということが重要で、それが出来ているかどうか、今後のその地域の持続可能性に関わると思い、私自身社会教育に関わっているが、その視点からこの(教育振興基本)計画を見ると、やっぱり学校が主語で子供たちに関わるものオンリーで、重点事業の中に地域に関する項目が入っていても、子供から離れるものではない、というのが全ての人に開かれるべき生涯学習として、どうしようもないものなのかと考えてしまう。

それこそ見せ方の問題かもしれないが、地域の学び、というものを基本政策3という形で別の体系に出来ないのか、というのが率直な感想。それは、最終的に子供につながるものであったとしても、という意味で。

(花岡委員) 一点質問だが、この“言葉の力の充実”というものは、読解力として先ほど話に挙げたが、この議論が上がった背景というものを教えてほしい。

(事務局) 第2期(教育振興基本計画)の中で、言葉の力ということで、きちんと理解し、使えるように、と、いわゆる国語力だが、その頃からキーワードとして“言葉の力の充実”ということが議論に上がってはいた。その時は、特色ある教育の中のひとつに位置づけられていたが、今回の計画では、特色がたくさん挙がっていたということもあり、絞っていこうという方向で議論した中で、前計画から議論されているということだ。

(花岡委員) 今回は(特色ある教育から)外れた、ということか。

(事務局) 外れたというよりは、これは行う前提で進めていこう、という意味合いで検討しているということだ。

読解力というと、読書との議論において、まず読むだけでなく理解できるようにすることが重要だろうと、生きていくための色々なベースとして本を読んで、たくさん色々なことを知っていくという点で重要であるという話だった。

(議長) それぞれの立場で様々な意見を以って、検討されていく本件だが、大きな流れとしては、学校の子供たちの能力を高めるために、授業力の向上を通じて、学校教育を再整備したいというのが大前提にあると思っている。

教員の不祥事やいじめ問題がある中、社会教育がどこまで貢献できるのか、と考える中、貢献できないのではないかと、といった雰囲気当初この柱(重点政策等)はあったかと思う。それをどう変えていくのか、というのが課題

かと考える。

文化、風土を変えていくのは、社会教育だと私は信じている。

(3) 「公民館利用者アンケート」について

(事務局) 資料3により、公民館利用者アンケートについて説明

(議長) 質問、意見はあるか。

(委員全員) 特に質問、意見なし

(4) 「平成31年度教育委員会組織改正等」について

(事務局) 資料4により、平成31年度教育委員会組織改正等について説明

(議長) 質問、意見はあるか。

(齋藤委員) 今、市民参画推進局で、神戸市リカレント教育アンケートをとっておられるかと思う。これは学びに対する傾向の把握と今後の講座運営に活かしていくとのことなのだが、この組織改正によって市民参画推進局に学びの事業が移っていくということもあって、横割り会議等を通じてさらに組織を改正されていくかと思うのだが、今まで培ってきたものがパワーアップされるような運営体制で行われていくことを希望する。

神戸市として生涯学習のブランドデザインを持つということは、イコール人やお金をかけることではない、ということだと思う。

ブランドデザインは必要であるけれども、民間や地域の力を使うことをデザインすれば、行政として人やお金をかけなくても出来ると思うし、そういった意味で、今、神戸市において社会教育や生涯学習がこういった位置づけに置かれているかが重要になるかと思うが、やはりなくてはならないもの、これからニーズが高まっていくものだと思う。だからこそ、それ(ブランドデザインと人・お金をかけること)を一緒にたに考えないで欲しいと願う。

(5) その他①「神戸市立中・義務教育学校部活動ガイドライン」について

(事務局) 資料5により、神戸市立中・義務教育学校部活動ガイドラインについて説明。

(議長) 質問、意見はあるか。

(委員全員) 特に質問、意見なし

(6) その他②「埋蔵文化財センター冬季企画展」等について

(事務局) 資料6により、埋蔵文化財センター冬季企画展等について説明

(議長) 質問、意見はあるか。

(委員全員) 特に質問、意見なし

(7) その他③「北神図書館の開館」等について

(事務局) 資料7により、北神図書館の開館等について説明

(議長) 質問、意見はあるか。

(委員全員) 特に質問、意見なし

(議長) 本日の議題はすべて終了したが、全体を通して何か意見があればどうぞ。無いようなら事務局に進行をお返しする。

6. 閉 会

(事務局) 長時間にわたりご審議いただきありがとうございました。次回の社会教育委員会議は夏頃を予定しております。改めて日程調整をさせていただきますのでよろしくお願ひします。

本日はありがとうございました。それでは会議を終了いたします。

【以上】